

プログラム名	
樹木医と取り組む 学校の木 健康診断	
プログラムの概要・ねらい	
校庭などで樹勢の衰えた樹木を対象とし、樹木医の見地を交えながら「木の健康状態」を観察し、樹木医が用いるものに準じた診断書と処方箋を作ります。その処方箋にしたがって、樹勢回復の処置を行ないます。木を生き物としてとらえること、生き物の抱えている問題に気付く目を養うこと、その解決のための行動を考え、実行に移すことを学びます。	
プログラムの分野	
地球温暖化防止・エネルギー ごみ・3R 自然 生き物 大気 水 その他	
プログラムの対象者	
幼稚園 ・ 小学校低学年 ・ 小学校中学年 ・ 小学校高学年 ・ 中学校 特別支援学校（ 視覚障害 ・ 聴覚障害 ・ 知的障害 ・ 肢体不自由 ・ 病弱 ）	
対象人数(1回に実施可能な人数)	
100 名程度まで	
実施場所	所要時間
学校敷地内	※幼稚園については、原則1時間まで 2時間
プログラムの実施に必要な準備物	
学校、園で準備が必要なもの	(診断)筆記用具(生徒児童園児各自)・クリップボード (処置)スコップ等・軍手
団場で準備するもの	(診断)診断書、処方箋用紙 (処置)改良資材等
プログラム実施に伴う安全上の注意事項、リスクの対処法 ※雨天時の対応など	
屋外実施が原則のため、暑さ寒さへの配慮が必要と考えられます。樹勢回復処置については、木に大規模な改変を加えるような処置は原則的に行わず、周辺環境の整備(例、土壌改良・雑草の除去・枯枝の除去等)にとどめ、参加者の安全に配慮します。雨天時は実施困難と考えられるため、学校運営に支障のない範囲で日程再調整を行ないます。	

【プログラムの進め方】

	学習内容・活動	写真
導入	◎校庭の「最近元気のない木」を全員で観察します。 ◎専門的な見地を交えて細かく診断し、各自診断書を作ります。 ◎さらに診断をもとに処方箋を作成します。	
展開	◎作成した処方箋をもとに、「木に元気を取り戻させる」ための処置を行ないます。 ◎樹体到大規模な改変を加えるような処置は行わず、木の周辺環境との関りに着目し、その整備を中心に行います。学校の担当責任者との事前相談の上でこれを行います。 考えられる処置の例 ◆根元の土壌改良 ◆(木にとっての)有害雑草の除去 ◆生育に支障のある枯枝などの除去 ◆落葉・雑草を用いた堆肥作り ◆周辺立ち入り制限の呼びかけ	
確認	◎診断→処方箋→処置の一連の取り組みを通じて、子供たちを取り巻いて、心地よい環境を提供してくれている生き物に目を向け、その生き物にとって「ためになる」行動を起こしたことを確認します。 ◎その後の継続的な管理や観察につなげます。	

【プログラムのアピールポイント】

- ◎木を生き物としてとらえ、生き物のために行動を起こすことの意味を、樹木医という専門職の取り組みの疑似的体験を通して学べます。
- ◎処置を施した樹木の「その後」を見守ることで、継続的な観察の目を養います。

【授業を受けた先生の声】

- ◎「ただ植わっているだけで普段はさして気にも留めなかった校庭の木が、健康だったり苦しんでいたりとすること、また治療によって改善してやれることなど、驚きだった。」
- ◎「診断書づくりが興味深かった。また、子供たちにとって、実際に生き物に働きかけられた、ということは、強い印象として残ってゆくと思う。」